

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2017とは？

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、4年目を迎えました。



連続講座レポート

第2回 武蔵野の水はどこから？

～水道水がつくられる場所を訪ねよう



2017年7月8日、夏本番の暑さの中で第2回講座が開かれました。現在のわたしたちの暮らしに欠かせない水道水をつくる浄水場や水源井戸を訪れ、水の使い方を改めて見つめなおす内容です。浄水場でしかできない、配水前の水の試飲は、外の気温と相まって、格別だったのではないのでしょうか。

今回の講座では、第一浄水場で安全な水道水を24時間365日送り出す工程を見学したのちに、緑町パークタウン内の水源井戸を訪れました。後半は市役所に場所を移して、水資源の分配や汚染についてシミュレーションを通して考えるワークショップを行いました。今回もサポーターさんに講座レポートをしていただきます。

第一浄水場、水源井戸を見学

レポート：水の学校サポーター櫻村さん

武蔵野市は、井戸水に、都の水を約2割混ぜ、二ヶ所の浄水場から給水しています。水源の井戸は、昨夏の湯水の際も影響を受けませんでした。都の水の供給を受けているので節水を呼びかけました。

参加者は、水道水を飲んでいる方が多く、市外の方から武蔵野の水は美味しいと言われた、水を販売したらよいとの声も聞こえました。施設の見学では、供給水の異常を監視するために飼っている金魚は強くなりすぎないように注意している、貯水施設は、水温が上がらないように屋根を芝生化している、供給が止まらない様に自家発電装置を設置するなど興味深い説明がありました。

また多くの水源井戸には、自家発電装置と塩素消毒施設があり、万一の場合は、そこで給水可能等の説明がありました。



水源井戸の中の非常用発電機。

武蔵野市の水道水の80%を占める地下水は、市内27か所にある水源井戸からくみ上げています。くみ上げられた水は、深井戸15本分が第一浄水場、12本分が第二浄水場に送られ、消毒、ろ過の後に供給されています。

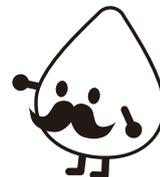
限りある水をどう使う？グループで、「水差しをまわそう」に挑戦！

レポート：水の学校サポーター原田さん

受講生20名が4グループに分かれ、ワークショップを実施することになりました。用意されたものは、水差し、プラコップ、ひもでした。水差しは、ひとつの水源（川、地下水）、プラコップは、水の使用量と水使用量、ひもは、川を表しています。上流から下流へと水差しをまわし、それぞれ必要な量の水をコップに注いでいきます。

1回目の実施では、各水使用者が慎重に水を有効利用している様子が良くわかりました。結果は、水資源に余裕があったので、水差しには水が残っていました。

2回目の実施では、1、3のグループは水量半減です。今年の降水量が少なくダム貯水量が例年の半分となっている想定です。2、4のグループは、やかん＝地下水を使いました。どちらのグループも水資源が不足しているので水使用者のせめぎあいが続きました。特に1、3のグループは地下水なので直接目に見えず苦労していました。一例ですが、「(水量が少なすぎて)川の魚が死んでしまう」という発言がありました。受講生の皆様方の意見の食い違いがありましたが、このテーマの目的は達成されたのではないのでしょうか。これからの講座も皆様方、一丸となつてがんばっていきましょう。



受講生の声より

- 技術の塊のようなICとかAIによる水質管理に金魚が使われていることを知り、驚きとともに、ほっとした気持ちになりました。
- 水源は生活のすぐ横にあることがわかりました。
- 浄水場に初めて足を踏み入れてみて、システムが理解できたと思う。フェンスに囲まれていると、なんだろうと通り過ぎるだけだったが、見学できてよかったです。



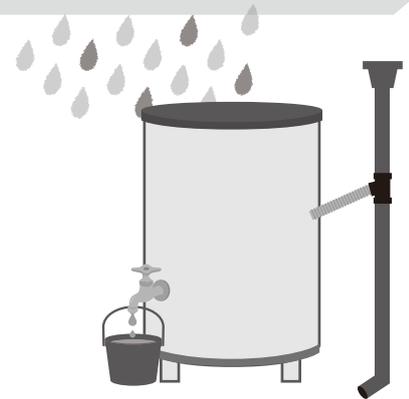
水源に見立てた水差しを順番に回していきます。

水コラム no.21: 学校やコミセン、公共施設での雨水利用

第2回講座では、嚴重に品質管理された水道水をつくる現場を見学しましたが、水を使うのは、家の中だけではありません。

武蔵野市では、雨水タンクを一部の市立小中学校やコミセンにも設置し、溜まった雨水を子どもたちがアサガオなどの水やりに使っています。「みちまちみどり」2017年8月号(P.8～9)(一般財団法人グリーンボード発行)でも取り上げていただきました。

また、平成29年4月にオープンしたクリーンセンターでも、屋上に貯めた雨水を屋上の芝生への散水やトイレを流す水として活用しています。公共施設への設置により、みなさんの目に触れ、使っていただく機会が増えることを通して、各家庭での設置につながればと考えています。



関連イベント

図書館テーマ展示

6月の浸水対策強化月間に合わせて、今年も図書館で「雨と水」のテーマ展示を行い、多くの方に水関連の資料を手にとっていただきました。

武蔵野市郷土史会講演会「武蔵野市の水環境」でお話しました

7月9日、水の学校サポーターの紹介で、武蔵野市郷土史会の講演会で下水道課職員がお話をする機会をいただきました。都市化による水環境の変化、下水道の歴史と役割、市の取り組みと市民一人一人の取り組みなど下水道課長と担当職員よりお話をいただきました。アンケートでは、地域の中で一人でも多くの方に知っていただきたいという感想をいただき、市民の皆様に伝えていくことの大切さを改めて実感しました。

下水道展'17 東京ブース出展 (8月1日～4日、東京ビッグサイト)

全国各地の自治体や企業が出展する中、初のブース出展となった武蔵野市。武蔵野市の特徴的な取り組みの紹介として水の学校で行っている水の循環体験ゲームの簡易版を行うほか、雨水対策の紹介をしました。ゲームには、延べ120人以上の子どもたちに参加していただきました。サポーターも呼び込み、ゲーム進行、市の設備の解説に、他自治体への水の学校の宣伝活動まで！職員顔負けの働きぶりでした。他の自治体も集客のためにあの手この手でPR。啓発の手法の多さに、サポーターも職員も多くの発見があり、今後の参考にしたいと話していました。

また、この日に合わせ、市内の親子向けに下水道展と虹の下水道館をめぐるバスツアーを実施しました。さらに、中国の方が下水道展訪問に合わせ、武蔵野市の施設を視察にいらっしゃいました。



サポーター活動報告

●サポーターミーティングを行いました！

7月21日、サポーターミーティングを行いました。10月14日の連続講座では野川、仙川の上流部をめぐるコースを訪れる予定ですが、そのもう少し下流域はどうなっているのか？サポーター企画でステップアップ講座をやってみようということになりました。また、子ども向けにもっと啓発をしていきたい！という皆さんの熱い思いから、小学生向けに水の循環や雨水タンク、浸透ますといった水や雨との付き合い方が学べるようなプリントを作成しました。



*「水の学校サポーター」とは？：2014～16年度の連続講座修了生で構成する、水に関する自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループです。